

市内企業をさらに活性化!! 地域の人事部とは

「地域の人事部」とは、企業が自治体・金融機関・教育機関などと連携し、人材の獲得・育成・定着を行う取り組みです。令和4年度には燕市が全国に先駆けて取り組みの実証地域となり、これまで市内企業12社で20人の副業・兼業人材とマッチングが成立。外部人材の知見・スキルを生かした新商品開発や人事制度の改良など確かな効果を挙げています。

今後の自走化に向け、燕市独自に実施する「地域の人事部@燕」を開始し、地域企業と専門スキルを持った人材のマッチングを進めています。

「地域の人事部」の詳細は、特設サイトまたは広報つばめ2023年9月号をご覧ください。



特設サイト▶



◀ 広報つばめ



株式会社 テック・エンジニアリング
専務取締役
ましま こうじ
真島 浩二 さん



有限会社 本間産業
代表取締役
ほんま なおき
本間 尚貴 さん

「課題解決型」インターンシップで 若者と共に成長

学生にリアルな体験を
2019年から学生インターンシップ（就業体験）の受け入れを開始し、高校・専門学校・大学などから学生の受け入れを行っています。実習期間は、数日程度から数カ月に渡ります。その間、学生がリアルな業務に触れる実践的な学習の場として幅広い経験をしてもらっています。インターンの受け入れ側としては、将来的に自社への入社をきっかけにしたいという期待もありますが、まずは少しでも多く

の学生に「ものづくり業界」の楽しさを伝えることに価値を見出しています。
学生からの刺激が財産に
実習に励む学生の向上心や探究心にはいつも驚かされています。当社では、ただ業務をこなしてもらうだけでなく、より実務に近い経験をしてもらいたいと考え、「課題解決型」のインターンシップを実施しています。実際に、時間や人手を回すことができずストップしていたプロジェクトがあり、学生に引き継いでもらいました。学生は主体的

に課題に取り組み、その成果は我々の予想を超える素晴らしいものでした。
また、若者が新しいことにチャレンジする姿勢は、共に働く従業員の新たな視点やアイデアの発見につながるものだと感じています。インターンシップの学生を受け入れることが企業に与えてくれるプラスの刺激を実感しています。
今後もこのようなインターンシップの受け入れを継続し、学生の成長を見守りながら、会社としても新たな発見と成長の機会にしていきたいと考えています。



▲インターンシップ中の大学生・坂爪さん（東京都出身）。東京にいる時から新潟のものづくりといえば「燕市」のイメージがあったとのこと。実習の経験を通して、「企業が社会の中でどのように動いているのか体感できたことが大きい。この経験を将来に役立てたい」と話してくれました。

環境保全の推進が「信用」に

求められる環境保全
SDGsの取り組みとして、カーボンニュートラルや環境保全に配慮した経営を進めています。具体的には、太陽光パネル設置によるクリーンエネルギーの導入、二酸化炭素排出量の可視化および削減目標の設定、排気・排水処理の適切管理などを徹底しています。このような取り組みが実を結び、昨年は温室効果ガスの排出削減における国際認定「中小企業版SBT認定」の取得につながりました。

「信用」を企業の武器に
なぜ企業がこれほどまでにSDGsの分野に注目するのかと疑問に思う人も多いと思います。私が考えるに、「続く・選ばれる会社」として「信用」が果たす役割はとて大きい。例えば、同じ品質・コストで仕事を

する企業が複数ある場合、選ばれるのは信用できる企業だと思います。社会から認められることは、従業員の仕事に対する誇りを生み、就職を目指す若者にも魅力的に映るはず。「信用」が会社にとって好循環を創り、持続的に機能していく一因であると考えます。
日々、産業を取り巻く環境は変化を続けていますが、燕は企業同士の結びつきが強く、良いものを積極的に取り入れ広がっていく地域です。今後も時代を捉えた取り組みを進め、選ばれるものづくりの聖地となることを期待しています。

Interview 市内企業の取り組み

燕市には、時代や環境の変化を恐れずシンカを続ける企業が多くあります。

"ものづくり"のまち燕市を未来につなぐために、先進的な取り組みを進める2社にお話を伺いました。



▲屋根の大部分に設置された太陽光パネル。設置後は、電力コストの削減のほか、工場内の気温上昇を抑える点でも効果があったといえます。

用語の説明

※1 カーボンニュートラル
温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、実質ゼロとすること。

※2 SBT 認定
企業がパリ協定に準じた温室効果ガス排出削減目標を設定していることを示す国際認定。